

きらり 通信

平成26年12月5日(金)発行 第19号

福島県立須賀川養護学校

tel: 0248-76-2511 fax: 0248-72-4729

ホームページ <http://www.sukagawa-sh.fks.ed.jp>

「サポートブック」をご存知ですか？

教頭 小野 美花

「サポートブック」という言葉を聞かれたことがありますか？

福島県内の市町村によっては、「相談支援ファイル」「サポートシート」「サポートファイル」「教育相談票」等様々な名前がついています。福島県内には、16ほどのサポートブックがありますが、須賀川市にはまだありません。2015年発行の予定と聞いております。

さて、「サポートブック」とは…？

障がいのある人がいつでも誰からでも同じ支援を受けることができ、安心して社会生活を送ることができるようにするための支援ツール（道具）です。



どんなことが書いてあるの？

基本的に障害の種別に関わらず、お子さんが初めて接する人（例えば、ボランティアや新しい担任の先生など）に、お子さんの特性や接し方について知ってもらうための情報を書いておくものです。

- ①名前や連絡先、障害特性など基礎となる情報
- ②子どもの好きな遊び、かかわり方や苦手なもの
- ③食事やトイレ、着替えなど、その時に必要な情報
- ④要求のしかた、拒否のしかたなど、コミュニケーションのとり方について
- ⑤不安や過敏、パニックへの対応などについて

一例ですが



「何を書いたらいいの?」「どこから書き始めたらいいの?」と最初は不安に思うかもしれませんが、まずは書けるところから書き始めましょう。書いていくうちに、お子さんの情報が整理され、また、今までに気づかなかった新しい一面を発見できます。

実際見てみたい方は、各市町村の障がい福祉課（健康福祉課）の窓口やHPからもダウンロードが可能です。

障がい者スポーツでつながろう その2



今回は、知的障がいのあるアスリートのために設立された「スペシャルオリンピックス」を紹介します。ケネディ元大統領の妹ユニス・シュライバーが始めた世界的な組織で、知的障がいのある方々に日常的なスポーツプログラムを提供しています。2012年には福島県で冬季全国大会が開催されました。



勝ち負けではなく、アスリートがベストを尽くすこと、そして才能や技能、友情を多くの方と分かち合うことを目標としています。スキー・スケート・フロアホッケー・テニス・ボウリング・陸上・水泳・ソフトボール・サッカーなど、県内で10種目以上開催しています。コーチやボランティアとして参加することもできます。興味のある方は、ぜひホームページをご覧ください。（文責 笹山）

教材紹介：クイックトーカー



赤いボタンでシート番号を選択するとこのボタンが点灯する



その時、選択できないボタンには蓋をする。



クイックトーカーは、ボタン部分に絵や写真や文字を入れ、録音・再生することができる機器です。

学校で使用しているものはボタンが12個あるタイプのものであり、シート5枚分録音可能です。

小学部では、話して伝えることが難しい児童が絵や写真を手がかりとして選択したボタンを押し、録音された音声で伝えていきます。

今年度は欲しい物、行きたい場所、聴きたい曲の3種類のシートを使用しています。

ボタンを押すことで自分の意思が伝わるという経験を重ねていったところ、クイックトーカーで要求できることを目標に学習に最後まで取り組もうとする様子が見られるようになってきています。また、一度ボタンを押して流れた音声を自分で確認する場面も見られています。写真や絵と実物、音声言語が結びついていることが相手にもはっきりと伝わり、やりとりにも確かさが感じられるようになりました。

(文責：桑原・佐藤)

☆きらりちゃん日記☆



遊びや活動を楽しむかわり手の気持ちや気持ちが伝わると子どもの意欲も高まることがあります。内容とともに雰囲気も大切ですね。

(大竹)

本の紹介

今回は、家庭や学校で“即戦力”になりそうな3冊です！



特別支援教育でよく聞くキーワードから「学級づくり」「授業づくり」「保護者との連携」まで幅広い内容がコンパクトにまとめられています。とても読みやすい本です。(紹介者：大竹)

子どもが意欲をもち、成功体験を積み上げられるような『魔法の言葉かけ』が絵入りで紹介されています。行動の分析の仕方も載っています。どの年齢にも応用できる一冊です。(紹介者：桑原)



子どもたちが「わかった！」と声を上げる授業を展開するためのヒントが詰まっています。算数や学級活動、インクルーシブ教育の実践が特集された号も刊行されています。(紹介者：最上)